



<定点把握感染症>

疾患名	全国	山形県			山形市保健所			村山保健所			最上保健所			置賜保健所			庄内保健所			累積(県)
	第42週	第42週	第43週	増減	第42週	第43週	増減	第42週	第43週	増減	第42週	第43週	増減	第42週	第43週	増減	第42週	第43週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(44)			(9)			(10)			(4)			(9)			(12)			
インフルエンザ	106 0.02																			5
小児科定点 (定点医療機関数)		(29)			(6)			(7)			(3)			(6)			(7)			
RSウイルス感染症	3097 0.99	112 3.86	137 4.72	▲	17 2.83	11 1.83	▽	7 1.00	20 2.86	▲	4 1.33	2 0.67	▽	80 13.33	100 16.67	▲	4 0.57	4 0.57		902
咽頭結膜熱	200 0.06		2 0.07	△					1 0.14	△								1 0.14	△	383
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1314 0.42	18 0.62	6 0.21	▽				9 1.29	3 0.43	▽				7 1.17	3 0.50	▽	2 0.29			449
感染性胃腸炎	6979 2.23	38 1.31	39 1.34	▲	16 2.67	12 2.00	▽	10 1.43	17 2.43	▲	1 0.33	1 0.33		10 1.67	9 1.50	▽	1 0.14			5944
水痘	235 0.08	4 0.14	2 0.07	▽	1 0.17	1 0.17		1 0.14		▽					1 0.17	△	2 0.29			104
手足口病	3649 1.16	22 0.76	12 0.41	▼	2 0.33	2 0.33		4 0.57	3 0.43	▽	5 1.67		▼	9 1.50	5 0.83	▼	2 0.29	2 0.29		2627
伝染性紅斑	22 0.01																			7
突発性発しん	778 0.25	8 0.28	8 0.28		1 0.17	1 0.17			2 0.29	△				4 0.67	4 0.67		3 0.43	1 0.14	▽	469
ヘルパンギーナ	1019 0.33	12 0.41	3 0.10	▼										11 1.83	3 0.50	▼	1 0.14		▽	1319
流行性耳下腺炎	106 0.03	1 0.03		▽							1 0.33		▽							24
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(1)			(3)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	5 0.01																			0
流行性角結膜炎	157 0.23	5 0.63		▽				2 0.67		▽	3 3.00		▽							73
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(2)			(2)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)																				2
クラミジア肺炎																				0
マイコプラズマ肺炎	8 0.02																			5
細菌性髄膜炎	8 0.02																			2
無菌性髄膜炎	12 0.03																			0

◎ : 警報レベル ○ : 注意報レベル

<全数把握感染症>

疾患名	報告数					備考
	山形市	村山	最上	置賜	庄内	
結核		3	1			※内、追加報告(3) 週 報告数 第42週 1 第40週 1 第29週 1
ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く)			1			

<通信欄>

※新型コロナウイルス感染症情報について

新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システムの運用開始に伴い、新型コロナウイルス感染症は週報の対象外となっています。

山形県の新型コロナウイルス感染症に関する情報は、右記の「新型コロナウイルス感染症に関連するポータルサイト」をご覧ください。(QRコードを読みとるかPDFファイル上でクリックしてアクセスしてください。)



※警報・注意報の基準値

疾患名	警報レベル		注意報レベル
	開始	終息	
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

※ウイルス分離・検出状況については、衛生研究所のHPをご覧ください。

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数
 ※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

< 定点把握感染症 報告患者数 年齢別 >

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	合計
インフルエンザ	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									0
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	11	18	33	37	18	7	4	2		2	1	1		3	137
咽頭結膜熱		1	1												2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎								1	1			3	1		6
感染性胃腸炎	1	3	5	7	7	3	4	2			1	4	1	1	39
水痘								1		1					2
手足口病			4	5	1							2			12
伝染性紅斑															0
突発性発疹		3	3	1	1										8
ヘルパンギーナ					1	1							1		3
流行性耳下腺炎															0

< 令和4年9月 月報 >

2022年10月19日 発行

疾患名	山形県		山形市保健所		村山保健所		最上保健所		置賜保健所		庄内保健所		累積(県)	
	8月	9月	8月	9月	8月	9月	8月	9月	8月	9月	8月	9月		
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(3)		(1)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	11	13	3	4	2	2	1	1	1	3	4	3	125
	定点当り	1.10	1.30	1.00	1.33	2.00	2.00	1.00	1.00	0.50	1.50	1.33	1.00	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	9	5	1				4		4	3		2	48
	定点当り	0.90	0.50	0.33				4.00		2.00	1.50		0.67	
尖圭コンジローマ	報告数	4	1	1				1		1		1	1	17
	定点当り	0.40	0.10	0.33				1.00		0.50		0.33	0.33	
淋菌感染症	報告数	4	5		1		1			1	1	3	2	26
	定点当り	0.40	0.50		0.33		1.00			0.50	0.50	1.00	0.67	
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(2)		(2)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	3	3		2					1		3		28
	定点当り	0.30	0.30		1.00					0.50		1.00		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	11	11	1		1	1	1	2	2	8	6		105
	定点当り	1.10	1.10	0.50		0.50	0.50	1.00	2.00	1.00	2.67	2.00		
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数													0
	定点当り													

< トピックス >

RSウイルス感染症に注意してください

RSウイルス感染症の県平均定点当たり報告数は4.72人で、前週より0.86人増加しました。

置賜保健所、村山保健所、山形市保健所管内で報告数が多くなっています。手洗いや咳エチケットなどの一般的な予防対策を徹底し、特に新生児や乳児の感染に注意しましょう。

< 定点当たり報告数の推移(山形県) >

RSウイルス感染症流行MAP

18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0

21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 週

◆ 山形市保健所
■ 村山保健所
● 最上保健所
▲ 庄内保健所
◇ 置賜保健所
— 山形県
- - 県過去5年平均

●RSウイルス感染症ってどんな病気？

RSウイルス感染症は、RSウイルスに感染することによって起こる呼吸器感染症です。2歳までにほぼ全ての人が感染し、生涯で何度も感染を繰り返すと言われています。

RSウイルスに感染すると、咳や発熱、鼻水などの風邪のような症状が数日続きます。潜伏期間は、約4～6日です。

多くの場合軽い症状で済みますが、まれに細気管支炎や肺炎を併発して、症状が重くなる場合もあります。特に初めて感染した場合は症状が重くなりやすく、新生児や生後数ヶ月以内の乳児は注意が必要です。

●予防するにはどうすればいい？

感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染、ウイルスがついている物を介しての接触感染があります。予防法としては、手洗いの励行、マスクの着用、ウイルスの付いている物の消毒が有効です。

RSウイルス感染症の予防には、基本的な感染症対策を徹底することが大切です。

※RSウイルス感染症に関する情報は、下記のアドレスから参照できます。

©RSウイルス感染症に関するQ&A(厚生労働省HP)
https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.htm